

県内の外国人遍路の現状 ～札所と関係事業者へのインタビュー～

上席研究員 青木伸太郎



2024年は日本へのインバウンド（訪日外国人旅行者）が数・消費額とも過去最高を更新した。県内のインバウンド宿泊者数も過去最高となった（速報値）。そうした中、県内をお遍路の目的で訪れる外国人は全国平均より速いペースで増加している（「徳島経済」vol.109ではコロナ禍の状況を取り上げた）。
アフターコロナの今、「お遍路文化」は海外から高く評価されている。
県内の外国人遍路の状況や今後の取り組みについて、県内札所の若手住職・副住職と関係事業者へインタビューを行った。
＜インタビュー期間：2024年11月～12月＞

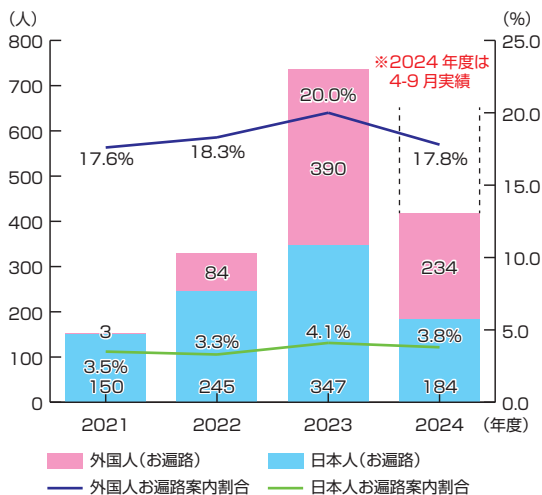
提供：（一社）イーストとくしま観光推進機構

1. 徳島市広域観光案内ステーションを訪れる外国人の状況

徳島駅前アミコビル1階にある徳島市広域観光案内ステーションは、英語で対応可能なスタッフが常駐するJNTO（日本政府観光局）カテゴリⅡ認定の外国人案内所だ。

同案内所のデータによると、県内へお遍路の目的で訪れる外国人は2023年に急回復し、2024年も増加した。特にシーズンの3～4月と10～11月に多くなり、この時期の外国人への案内はほとんどがお遍路となる。国籍別では欧米豪からの来訪を中心に、幅広い。

■ 徳島市広域観光案内ステーションのお遍路関連の案内状況



資料：徳島駅前観光案内所提供資料より筆者作成

■ 国籍別案内状況（2023年度）

お遍路のみ		(人)	
1	オーストラリア	75	
2	米国	70	
3	フランス	63	
4	ドイツ	60	
5	オランダ	30	
6	台湾	28	
7	スペイン	26	
8	カナダ	19	
9	ブラジル	18	
10	デンマーク	16	
11	スイス	15	
12	香港	14	
12	イギリス	14	
14	ニュージーランド	13	
15	シンガポール	9	
16	南アフリカ	7	
16	ニューカレドニア	7	
18	ベルギー	6	
18	オーストリア	6	
20	タイ	5	
20	ノルウェー	5	
22	韓国	4	
22	イスラエル	4	
22	イタリア	4	
25	中国	3	
25	ポルトガル	3	
27	チリ	2	
27	スウェーデン	2	
27	マレーシア	2	

資料：徳島市広域案内ステーション提供資料より筆者作成

2. 多い人は3回来る

— 徳島市広域観光案内ステーション ランス・キタ氏 —

——外国人お遍路さんの状況はいかがですか。

2023年にインバウンド受入が再開されてから外国人が急増した。コロナ禍で来ることができなかった3年分のお遍路さんが来た感じだ。2024年も同じ勢いが続いている。このままいくと2023年を少し超えるかもしれない。外国人の年間の相談件数は約2,000件。春と秋に集中し、出発したあとは少なくなる。

——どんな外国人が相談に来ますか。

第1番霊山寺へ行きたい外国人がスタート前に相談に来る。次は第17番井戸寺へのお参りが終わった後に県内の後半の情報をもらいに来る。そして結願後に再び第1番へ報告する前に高野山へ行く方法を尋ねに来る。多い人は3回来る。徳島市はお遍路情報を得るキーポイントになるのかもしれない。

——どんな問い合わせが多いですか。

宿の手配が一番多い。遍路宿では電話予約が求められる。当案内所に来るのは日本が初めての人も多く、スタッフが代わりに宿へ電話してあげている。県内の巡礼3日間の手配依頼を受けることもある。他の客よりも対応時間が長くなる。平均20 - 30分で、長いと1時間ほどかかる。

次に多いのはルート確認。アプリやガイドブックだけでは分からないことも多いようだ。

徳島駅前に宿泊しながら県内23ヶ寺を回る7日分のモデルルートを用意している。公共交通機関で各札所の近くまで行き、歩いて回った後に公共交通機関でまた戻って来ることができるのは意外と知られていない。歩く自信がない人や、宿をどうしても手配できない週末に提案している。この場合だと荷物を1つの宿に置いて回ることができる。

手荷物預かりについては、当案内所では有料で対応している(1個500円/日)。中には1ヵ月間



ランス・キタ氏
ハワイ出身。現地博物館の教育スタッフを経て来日。徳島在住歴18年。2022年まで徳島文理大学の英語教師と語学長センター長として勤務したのち、インバウンドに携わるため現職へ。

預ける人もいる。県内の一部事業所において(第11番→第12番周辺と第20番→第22番周辺)、宿の間で当日中に次の宿まで手荷物を運搬するサービスがある。

——問い合わせに対応する際の困りごとは何ですか。

宿に電話が繋がらない場合がある。午後に来る人が多いが、夕食の準備で忙しい時間帯は連絡が中々つかない。

オーナーが高齢となり廃業する宿が増えた。宿以外の仕事(農作業など)で忙しく受け入れていないところもある。また、手配が非常に難しいエリアがある。スタッフ不足で100%稼働していない宿もある。

バスの便数が少ないことも案内するときに困る。特に南部ではバスとJRの連絡が上手くいかない。第12番焼山寺を下りたところでは町営バスが廃止されている。

——四国遍路の魅力を高めていくにはどんなことが必要ですか。

巡礼の主要なポイントで情報センターがあればリレーで案内できるようになる。案内のネットワークが整備されれば外国人は安心して回れるだろう。

巡礼の各地で宿、コンビニ、トイレなどが掲載された地図を用意すれば有難いと思ってくれるだろう。最初に全部あるよりも各地で情報を得られるほうが良い。制作する自治体が少ないため、当案内所では独自の資料を置くようにしている。

あとは、遍路宿を新しい経営者が運営することを応援してほしい。宿が新たに整備されればこちらから積極的に紹介する。

今年は「プチ遍路」が増え、1 - 2 週間で回れるところを求める人が多くなった。こうした需要に対応していくことも必要だろう。サイクリング遍路の情報もあったほうが良い。

当案内所は 2023 年に観光庁から全国表彰を受けた。スタッフはより役立つ情報を伝える方法をいつも考えている。

3. 京都や東京はもう経験済みの外国人にとって四国遍路はより深い日本を体感するのにぴったりなのだろう

— 第 6 番札所安楽寺 住職 畠田 裕峰 氏 —

——今年の外国人のお遍路さんの数は昨年やコロナ禍前に比べていかがですか。

格段に増えていて、去年よりも増えている。宿坊を利用する外国人は平均すると 3 割くらいで、日によっては全て外国人のときがある。

——外国人お遍路さんに変化はございますか。

外国人はマナーが良い。日本のことをよく勉強している。日本人よりもきちんとした格好で来る。京都や東京はもう経験済みの外国人にとってお遍路はより深い日本を体験するのにぴったりなのだろう。お遍路の目的の一つである自分を見つめ直したい人も日本人より多い。

——外国人は四国遍路のどのような点に満足していますか。

四国では色々な団体や企業がお遍路さんにお接待をしている。地元の小中学校はお接待を授業



スタッフ手作りの情報を多数用意している

徳島市広域観光案内ステーション
徳島市元町 1 丁目 24 アミコ東館外 1 階
営業：10:00 - 19:00 年中無休（1/1 を除く）



に取り入れている。外国人は、お接待が四国特有の文化として根付いている点を高く評価している。あとは四国の綺麗な景色にも感銘を受けている。

——外国人はスペインのサンティアゴ巡礼と四国遍路ではどのような点が異なると話していますか。

スペインのほうが食事と寝る場所の確保が容易なようだ。値段も安い。四国の遍路宿は減ってきている。特に郊外で少なくなった。オフシーズンに閉じているところもある。遍路宿の手配は外国人にとってハードルが高い。

一方で、宿側からみれば外国人は無断キャンセルがある。食事を用意していても来ない場合がある。心配して電話をかけてもつながらない。つながっても言葉が通じない。こうした「No-Show」の問題には事前決済を取り入れていく必要があるかもしれない。

その点、インバウンド旅行会社によるグループでのお参りは負担が少ない。旅行会社は Walk Japan（大分県）や OKU Japan（京都府）がある。宿泊客の体調が悪化したときもこうした会社の手配があると安心だ。

——お遍路さんを受け入れる際の課題は
ございますか。

個人予約の場合、チェックイン時の対応が大変だ。ビジネスホテルのような無人対応は宿坊では難しい。今高野山でも問題になっている。英語表記を増やすことに先ず取り組みたい。

——外国人から受ける問い合わせで多い
のはどのようなことですか。

次に泊まる宿の手配を納経所で頼まれることが多い。確実に到着するか分からないため、代わって電話してあげることができず、対応に苦慮している。

手荷物の運搬依頼も多い。外国人がタクシーを呼んで手荷物だけを運んでもらうケースがある。長旅になるので第1番霊山寺付近で荷物を預けられるようにしてはどうか。

人手不足に加えて食材等の仕入価格や経費が上昇しているため、宿泊料金に転嫁していかねばならない。



安楽寺宿坊は、江戸時代に阿波藩が宿泊施設を整備するためにお遍路さんの行程に合わせて県内に8ヶ所定めた「駅路寺」の一つ。現在は同院のみが残る。

四国八十八ヶ所霊場第6番温泉山安楽寺
板野郡上板町引野寺ノ西北8-8
宿坊：57室



畠田 裕峰 氏
上板町出身。高野山大学卒業後、高野山新別所での加行ののち、副住職として従事。2024年、住職に就任。

——四国遍路の持続・発展に向けてこれから取
り組んでいきたいことについてお聞かせいただ
けますか。

お参りをする意味や、弘法大師の思想を伝える機会を増やしていきたい。宿坊に泊まればこうした機会を得やすいが、お参りだけでは分からないことも多い。巡礼のきっかけづくりに取り組んでいきたい。

4. 外国人は巡礼に対するリスペクトが ある

— [遍路用品店] スモトリ屋浅野総本店 浅野
敏司 氏、門前一番街 森下 麻美子 氏 —

——事業環境について。

(森下)日本人のバスによる遍路が大きく減少し、事業者の淘汰が進んだ。

(浅野)昔の良かった時代とは違う。何とか続けていけるよう努力している。

——外国人の状況は。

(森下)増えている。グループでバスを貸し切って来ることも多くなった。

(浅野)インバウンド旅行会社によるツアーも増えているようだ。88ヶ所全部回るのではなく、歩

き遍路に人気のハイライトだけを周遊するようなコースも人気と聞く。四国遍路に来る外国人は、トレッキングやアウトドアアクティビティの愛好者であることが多い。また、信仰は違っても、巡礼そのものや地元文化に対するリスペクトがある。(森下)外国人はリスペクトがとてもある。ほとんどがお遍路に満足している。「地元の人が優しかった」という感想が圧倒的に多い。「お接待をするのはどうしてだ」と必ず聞かれる。悪いことをしようとしてもできなくなるほど親切にしてくれるのだろう。



浅野 敏司氏
阿波市出身。スモトリ屋浅野総本店（(有)浅野掛軸店）5代目。大学卒業後、国際観光振興会（現・日本政府観光局）入職。ニューヨーク事務所勤務などを経て帰県し家業を継ぐ。阿波市観光協会会長。

——外国人からの要望で多いのはどのようなことですか。

(森下)宿の問い合わせが多い。外国人に宿を紹介したときにちゃんと行くかどうかがとても気になる。代わりに予約してあげても、たどり着かなければこちらが宿からの信用を失う。

(浅野)外国人の一番の心配ごとは宿泊に関することだ。当店にも、その日泊まる宿の相談や、翌日翌々日の予約の取り直しに関する相談が多い。外国人からの不満も宿に関することが多いが、その多くは言葉の壁によるミスコミュニケーションが原因ではないかと思う。外国語が話せなくても面倒くさがらずに相手の言いたいことを何とか理解しようとする姿勢を見せることが受け入れ側にも必要かもしれない。

「Booking.com」と「お遍路ハウス」を併用して宿を予約する外国人が多い。宿にとっても「No-Show」を心配せずに済むというメリットがある一方、手数料もかかるため遍路宿の登録数はまだまだ少ないのが現状だ。

また、手荷物運搬の要望が増えており、実際にいくつか手荷物運搬サービスを提供している事業者があるようだが、採算を確保するには数が必要だろう。

(森下)手荷物預かりはお接待との線引きが難し

い。何故お金を取るかをきちんと定義しないと行けない。細かく考えていくと、手荷物の中には何が入っているか分からない。中身の申告や身分証明書の確認などを想定すると、スタッフの負担が大きくなる。コインロッカーでの対応を検討しているところだ。

(森下)キャッシュレス対応が不十分という声はあまり聞かない。

(浅野)遍路中は現金しか使えないところが多いということを知っていて、予めキャッシュを多く用意している人もいるが、出来れば現金は後々のために取っておきたいという人が多い。

(森下)日本人のマナーが教えられたものと違っていたということはよく言われる。

(浅野)日本人のほうが巡礼へのリスペクトが弱いかもしれない。

——遍路用品のサプライチェーンに変化はありますか。

(浅野)コロナ禍で小規模なメーカーがたくさん廃業した。高齢化や担い手がないことが理由で、コロナが廃業を早めた印象も。

(森下)メーカーは遍路用品だけを製造している訳ではない。一定のロットで製造が行われるため、時期によっては用品の調達が難しくなる。

——用品に関して外国人からどのようなニーズがありますか。

(森下)最も売れるのは白衣。杖とすげ笠を購入する方も多し。お遍路文化へのリスペクトがある外国人は、きちんと身支度を整えてくれる。細やかなニーズに応えられるよう商品の幅も広げたいが、ロットも必要で簡単ではない。

(浅野)巡礼を終えた後に用品をどうするか悩むケースが多い。トータルの荷物の量や航空会社によっても異なるが、追加料金を求められても預けられるのであれば、できるだけ記念に持って帰ることを勧めている。

(森下)用品をリサイクルできれば良いが、それは宗教上難しい。徳島阿波おどり空港で遍路用品を機内へ持ち込みやすいように対応できれば良いが。

(浅野)高松空港にはお遍路さん用の更衣室がある。

——四国遍路の魅力を高めていくために必要な取り組みはどのようなことですか。

(森下)巡礼者に関するデータの整備が必要。人数のほか、男女、年代、居住地などの情報があれば戦略を立てやすくなる。

(浅野)各自自治体がお遍路を誘客の重要なコンテンツとして捉えて連携していくことが重要。お遍路さんにとって行政区画は関係ない。例えば第1



門前一番街は、遍路用品一式に加え、地元業者とコラボレーションした商品を多数取り揃える。納経帳は欧米系とアジア系で選ばれるデザインが異なる。

門前一番街
鳴門市大麻町板東西山田 29 - 6 (靈山寺門前)



森下 麻実子 氏
鳴門市出身。東京都内の大学を卒業後、外資系証券会社を経て国際オリンピック委員会 (IOC) 事務局へ。駐日ギリシャ大使館勤務後、徳島へ戻る。鳴門公園内「エスカビル・鳴門」の運営も手掛ける。鳴門公園観光協議会会長。

番から第10番までの10カ寺は4市町にまたがるが、各市町が連携して10ヶ所参りをPRすれば、お遍路へのハードルが下がり新たな層の需要につながるかもしれない。

(森下)あとは、お遍路のビジネスを新たに始める人を支援していくことも必要だと思う。

——徳島でどんなことをしていくべきですか。

(森下)札所を含めたお遍路の関係者が定期的に話し合い、アイデアを出し、協力関係を築いて取り組んでいけるようになっていければ良いと思う。

(浅野)これから人口減少のペースが加速する。お遍路さんを受け入れる側の人口が減っていく中で、地元の人がもっとお遍路に目を向け、担い手



スモトリ屋浅野総本店は、約130年前から続く巡拝用品、掛軸、仏具の老舗。遍路用品の取り扱いでは四国最古の店の一つで、お遍路さんの立ち寄り場所となっている。

スモトリ屋浅野総本店
阿波市市場町切幡観音 173 (切幡寺参道)



を確保していかなければならない。実際にお遍路に出たり、お寺に親しんだりする機会を増やし、お遍路文化を次の世代につないでいく取り組みが必要だ。

(森下) 地元の人のお遍路への興味が薄れてきているように思う。興味を持つことはお遍路文化の維持につながる。お遍路へのリスペクトが弱くなり、倫理観が失われていかないか危惧している。

観光地のブランディングを实践するトップランナー達は、「四国のお遍路文化は世界的なブランドになる」と皆が言っている。四国の魅力向上のためにも必要な取り組みだ。

5. 四国遍路はもともと修行から始まったが、現代に適したかたちがある

— 第8番札所熊谷寺 副住職 高島 大智 氏 —

——外国人のお遍路さんの数は昨年やコロナ禍前に比べていかがですか。

昨年に比べると多い。コロナ禍前よりも増えた。ヨーロッパからは若年層-中年層が多く歩きが中心。アジアからはバスや(ジャンボ)タクシーでの集団遍路が中心。両方とも増加している。初めての日本で英語が通じない人もいる。思うところがあって来ている人や、日本の文化体験をしたい人が多い。アジアからの人は日本の仏教の自国のものとは少し違う点を知りたいと考えているようだ。

——日本人のバスによる団体の数は昨年やコロナ禍前に比べるといかがですか。

コロナ禍前に比べると少ない。宿泊代の高騰やバスの運転手の規制が強まったことでバスツアーを組みづらくなった影響があるのだろう。代わりに知り合い同士や家族でジャンボタクシーを貸し切って回る人が増えた。日本人の個人の遍路の数は以前とあまり変わっていない。信仰よりも旅行として回る人が多いと感じる。



高島 大智 氏
阿波市出身。種智院大学在学中に先代が他界し高野山の真別処に入り加行。その後帰県し徳島文理大学心理学科を卒業後、副住職として従事。

——外国人のお遍路さんから受ける問い合わせで多いのはどのようなことですか。

当日の宿の手配について問い合わせを受けることが一番多い。海外と四国では宿の手配の仕方が違うようだ。海外では現地に到着してから探す。また、巡礼のペースによって宿を変えられる。

四国遍路の宿は数が足りていない。コロナ禍で廃業し、以前より減少した。宿で生計を立てていくのが難しいため、新たに開業する人が少ない。遍路宿が事業として成り立ちづらいのは、遍路以外での利用に適した場所に立地していないところが多く、お遍路さん以外の利用が少ないためだ。かといって料金を高くするとお遍路さんからは使われなくなってしまう。

——お遍路さんを受け入れるために貴院で力を入れていることはございますか。

一度に全部回るだけではなく、短い期間でお遍路以外の目的で回る人も多くいる。四国遍路はもともと修行から始まったが、現代の旅行に適したかたちがあると思う。

「小さな遍路」として、各県ごとや、5-6回区切って巡礼することも有効だと思う。そうした巡礼の際の目玉となる寺院を目指したい。当院では花や塔など良い写真を撮ることができる。

「四国遍路」だけではアピールできない層にも興味を持ってもらうために、お遍路+αの魅力を高めていくことが今後は必要だ。そのためには地域全体の魅力を高めていかなければならない。

——四国遍路の魅力向上に向け、地域、関連事業者、行政と一緒に取り組んでいくことをどのように捉えられますか。

札所が立地する場所によって状況は異なるものの、札所や関係者がお遍路さんの受入環境を良くしていくために一緒に話をするのは有効だと思う。

境内のトイレや駐車場の整備は当然だが、1カ寺でできることには限りがある。お遍路さんの受け入れ環境の整備に地域と一緒に取り組めば相互に補っていけると考えている。そうしたことは四国霊場としても期待している。

交通の便を良くする、宿、トイレ、休憩所を増やすことがお遍路さんへの一番の手助けになる。お遍路さんが必要な設備は道から外れたところにあることが多い。インフラの整備は全体的な視

点からでなければできない。

——お遍路さんにどのようなことを望まれますか。

目的はそれぞれあるだろうが、巡る中で「修行」という意識を持っておいてほしい。自分自身の菩提心(：悟りを求める心)を養うことで、心体を仏に近づけていくことができるようになる。これを修行と見るならば、旅行も仏への道のりである。

6. お寺と地域の距離を近くしていきたい

— 第17番札所井戸寺 副住職 中村 寛星 氏 —

——今年の外国人のお遍路さんの数は昨年やコロナ禍前に比べていかがですか。

去年よりも増えている。ヨーロッパからの人が多い。ほとんどが歩いて来る。個人で回っている途中で仲良くなって一緒に来ることも結構ある。建築物や雰囲気を見たり感じたりするのが好きなようだ。日本文化への評価も高い。

——コロナ禍を経てお参りに来る外国人に以前と異なると感じる点はございますか。

以前は宿を取ってあげても宿から「来ない」という連絡があったが少し減った。当院に来るまでに「No-Showはダメ」という情報を得る機会が増えたのかもしれない。

スペインのサンティアゴ巡礼で四国を知って来る人が多い。国営放送でお大師さんの特集を見て、という人もいた。

——外国人から問い合わせを受けの際に課題に感じるのはどのようなことですか。

英語対応が十分ではないこと



熊谷寺の仁王門は400年以上前に建立され、四国霊場の中で最大級。春には桜、初夏には紫陽花が美しく咲く。

四国八十八ヶ所霊場第8番普明山真光院熊谷寺
阿波市土成町土成字前田185



だ。当院には英語を話せるスタッフが少ない。私は若いので英語が話せると思って翻訳機がついていかないくらい凄いスピードで話してくる人がいて驚く。

あとは近隣に宿が少ないことだ。そこで英語対応も不足している。当院にはお昼から夕方到着する人が多い。お昼に来るのは第13番大日寺からスタートの人、夕方に来るのは第12番焼山寺からスタートの人。宿泊は徳島市内です。

野宿できるスポットをまとめてほしい、という要望も受ける。当院の通夜堂（狭い個室、トイレは外、風呂なし、食事は裏のコンビニ）は半分くらいが外国人に利用されている。マナーは悪くない。

——お遍路さんを受け入れるために貴院で力を入れていることはございますか。

春・秋は土日以外に平日も本堂を開けるようにしている。あとはトイレを綺麗に保つようにしている。海外の方からの質問で多いものは、ラミネート加工して読んでもらえるようにしてある。

——四国八十八ヶ所霊場会青年部での四国遍路の持続・発展に向けた取り組みについてお聞かせいただけますか。

遍路道の清掃活動に取り組んでいて、2024年までで7回目となった。四国各県で開催されているが、手伝いに行ける者は他県にも応援に行っている。

徒歩練業は2014年の四国遍路開創1200年のときに始め、先達を中心^{せんだつ}に大きな反響を得た。回を増すごとに参加者が増え、一時は100名を連れて回った。

御宝号88億回念誦プロジェクトは、「南無大師遍照金剛」を88億回唱えるもの。コロナ禍中に発案された。2024年12月9日現在、1億4千万回となっている。10年間で拝めたら良いと考えている。

御詠歌カルタ大会は第86番志度寺が作ったカ



中村 寛星 氏
三好市出身。寺の次男として高校まで同市で過ごし、高野山大学へ進学。卒業後高野山専修学院にて1年間修業。その後金剛峰寺に就職。3年間勤務したのち、2010年に同院の娘と結婚し、副住職に就任。四国八十八ヶ所霊場会前青年部会長。

ルタを使って開催している。子供に大変評判が良い。こうした企画を通してお寺と地域の距離を近くしていきたい。当院の境内は今も近所の小学生の遊び場となっている。

青年部の活動が多忙でも葬儀が入ればそちらを優先しなければならない。先日も北海道への出張をキャンセルして対応させてもらった。

——青年部の取り組みを進めていく際に課題に感じていることはございますか。

青年部の会員は45歳までのため、担い手が少なくなっていることだ。今、青年部本部は土佐部会が担当しているが、次の伊予部会に円滑に回せていけるか心配だ。

——寺院としての収入を得ていくための方法についてお聞かせください。

2023年の弘法大師生誕1250年に始めた大師納経だけでなく、お寺に関する御朱印を始めた。御朱印集めは引き続き人気がある。

昨年来、同じ17番である大谷翔平のTシャツが大変好評を得ている。バッジも制作した。

——四国遍路の魅力向上に向けて行政や団体に期待することはございますか。

災害時の情報を伝える手段を整備してもらえ

ると有難い。よくやり取りする愛媛県の第58番仙遊寺が昨年10月末の土砂崩れでお参りの受け入れが難しくなった際に、情報が上手く伝わらなかった。お寺の緊急情報を伝えられるようになったら良い。

お寺の行事の案内も、取りまとめて一括して行えるようになるならば有効だろう。今は先達には届くが一般の人には届かない仕組みだ。

2025年は大阪・関西万博が開催される。四国遍路への送客のため、四国遍路+ aとして、食文化などお遍路以外の情報発信を期待している。

徳島市の5ヵ所参りには歴史があり、昔は地元の小学生の遠足のコースだった。こちらもより身近なものになれば良い。

聞き手から

四国遍路を巡礼する外国人が大きく増加している背景には、海外のメディアで紹介され認知が広まったことや、外国人から人気の高いトレッキングと日本文化体験を両方実施できることがある。

「持続可能な観光」という、地域の自然・文化の維持や環境負荷の軽減につながる旅の仕方が注目されている。四国遍路はこの趣旨にも当てはまる。

欧米を中心にSBNR(Spiritual But Not Religious)¹⁾に関心を抱く若者が増加している。四国遍路がこの志向にぴったりであることも、関心を集める理由である。

今世界では倫理観を揺るがされる出来事が多く起こっている。心の安定や自分探しを求める外国人はこれからさらに増えていくだろう。



大谷翔平の背番号にちなんだTシャツが参拝客から好評を得ている。



井戸寺の名前は、空海が水不足で困窮する地元の人達のために一晩で井戸を掘ったことに由来する。井戸の水に顔が映れば3年間は大災いが起こらないといわれる。

四国八十八ヶ所霊場第17番瑠璃山真福院井戸寺
徳島市国府町井戸北屋敷80-1



外国人受け入れの一番の課題が宿の手配といわれて久しいが、未だ解決されていないことが分かった。外国人が使い易い、宿を手配するためのプラットフォームの整備・提供が必要だ。

インタビューで示唆された、プラットフォームとして備えるべき機能は、①宿の手配の注意事項をアナウンスすること、②先々までの予約と変更

¹⁾ 特定の宗教への信仰を持っている訳ではないが、精神的な豊かさを求める人々のことを指す。Pew Research Center (米) の調査によると、全米では5人に1人がSBNRに関心があるとされ、その内83%を若者が占める。欧州ではSBNR層が34.7%にのぼる。

4つの特徴があるといわれている。①心と体のバランス (Mindfulness)、②ネイチャー思考 (With Nature)、③人徳、大義、誠実 (Think Right)、④ポスト資本主義 (Post-Capitalism)。またSDGsや自然派生活、Positive influence、Social Goodに強いモチベーションがある。

アジア諸国への旅や東洋思想に関心が高まっており、特に日本への訪問が高い伸びとなっている。自然災害、パンデミック、戦争などの社会の大きな変化が背景にあるといわれている。

ができること、③不測事態のときに宿と予約した外国人が言葉の問題を超えてやり取りできること、④宿側が事前決済を指定できること、⑤宿同士、札所・事業者と宿がプラットフォーム上でやり取りできること、⑤手荷物運搬に必要な情報を提供すること、である。

予約を必要としないごく簡易な宿を整備することも有効かもしれない。また、ツアーによる送客は受け入れ側の負担軽減につながることが分かった。

遍路宿を開業する人が少ないのは、「宿で生計を立てることが難しいから」である。四国遍路はボランティアで成り立ってきたといわれる。しかし、過度なボランティアは受け入れ側の疲弊を招く。家族を養っている若者だと、必要な収入を得られなければお遍路さんの受け入れだけを続けていくことは難しいだろう。

これから高齢化と人口減少が加速していく。四国遍路の文化を継承していくには、担い手を確保できるよう、負担に対して一定の収入を得る仕組みを整備する必要がある。対価を得ることは、サービスへの責任、ニーズに合ったサービスの提供、サービス品質の担保につながる。それこそが「持続可能な観光」である。

外国人は四国遍路に「公式」なサービスを求めている。また、必要なインフラの整備・維持は、情報を取りまとめ、責任を担う中心組織による全体のマネジメントが不可欠となる。高野山ではこうした組織が動いている。四国には未だないため、議論の進展が期待される。

地域で関係者が定期的に情報交換し、必要な取り組みについて話し合う機会を求める意見が多くあった。県内で実施できるよう考えていきたい。